



神戸の観光案内

神戸大学 経済経営研究所

特命講師 小代 薫

昨年2月にNHK総合「ブラタモリ #65 神戸の街 ～神戸はなぜハイカラなのか?～」(2017年2月25日放送)に出演して以来、神戸の歴史に関する講演や街歩き案内の依頼をよく受けるようになった。そもそものきっかけは、横浜や長崎の居留地には無かった神戸の雑居地というものに注目して建築・都市史分野の博士論文をまとめたことによる。ちなみに雑居地というのは、同じく明治時代の日本に設けられたものであるが、外国人専用居住区であった居留地とはちがって、日本人と外国人が混在して居住することが認められた場所のことで、この地をめぐる繰り広げられた内外政府間のやりとりが、近代日本の都市関連制度の根幹部分の開発促進に大きく関わったという経緯がある。私としてはフィールドとして神戸を選んだにすぎないというつもりでいたのだが、いつの間にか神戸の歴史に詳しい地域史研究者としても認識していただけるようになり、また神戸愛を合言葉に渡り歩くホームタウンを持つ居心地のよさも覚えて、最近では求められるままかそれ以上にこれら社会活動にかかわらせてもらっている。

7月には神戸をテーマとした全日本通訳案内士連盟 JFG 西日本の業務研修会が予定されており、講師を引き受けることになった。今年の改正通訳案内士法の施行で業務独占権は撤廃されたそうだが、それまでは外国語を用いて報酬を得てインバウンド観光客を案内するには国家資格を持ったこの案内士さんたちをお願いしなければならなかった。現在彼らの神戸での主な活躍の場は、神戸港に寄港する大型クルーズ船の乗客の案内だそうで、今回彼らから頂いたお題が、外国人に神戸の代表的観光地である北野異人館街をどのように案内すればよいのか?というものだった。特に欧米人はまったく異人館に興味を示さず困っているとのことである。なお一番多いツアーは灘の酒蔵巡りで、2番が布引ハーブ園、3番くらいに北野異人館街がくるらしい。そしていずれも夕食は神戸ビーフという流れになるとのことだ。

私の経験では神戸の街歩きに参加される欧米人はウンチク好きで、専門外の一般の方でも日本人以上に食いつきが良い印象なのだが、同様の困難は公開異人館の館長からも聞かされている。理由は明白で、わざわざ日本で見なくても自分の国に帰ればもっと立派なものがいくらでもあるからだ、というのはよくわかるが、ただ、それでもなお話を聞きに来

てくださる方に、従来どおりの日本人観光客向けの疑似海外旅行体験レベルの情報しか与えない状態（風見鶏の館はドイツ人の家なのでドイツ風，萌黄の館はアメリカ人の家なのでアメリカ風，というような）で，自国がルーツの建築様式の極東での派生型の一つを見てもらっても，単に亜流の作り物を見せられているような気しかしないのではないかと思っはいた。わざわざ見に来られてる方は少数派だろうが，彼らの好奇心に応えうるガイドブックはない為，これについては欧米ルーツの建築様式のアジアでの展開や，日本の近代化へ寄与など，建築史，都市形成史の王道的な話の神戸の観光スポットを使って説明できるような情報を提供しようと思っている。明治以降の日本の近代建築史を順に巡るだけのストックが狭い範囲にまとまっているので実は神戸は便利なのだ。

もともと北野は雑居地であったので，かつては立派な和風邸宅も多く存在し，雑居地ならではの洋館と和館が密接混在する独特な風景がひろがっていた。もしいま，和館も洋館と同じくらい残っていれば，今回のようなインバウンド対応も楽に進みそうだったが，実際には洋館が選ばれ残されてきた困難はある。雑居地でありながら和館がほとんど残らなかった点について，建築史家や文化財行政側の怠慢を指摘する人もあるが，やはり日本人観光客を想定し「異国情緒」を売りに60年近くやってきた（観光行政側の）影響というのも大きい。しかしここに来てなんらかのアップデートを観光側から求められているというのが今の状況である。建築や町並みなどハード側はそう簡単には作り変えれないので，今後は新たな見方を発見するか，新たなストーリーを構築するなりして，徐々に変化していく方向に進んでいくものと考えられる。

それでも数は少ないが，地区として国の重要文化財に指定されている神戸北野の伝統的建造物群保存地区（伝建地区）には，現代の一般住宅に混ざる形で異人館だけでなく仏教寺院，大型和風邸宅，現代建築家安藤忠雄の建築作品まで点在しており，時間軸の長さや建築種別の豊富さが特徴となっている。白川郷や妻籠，倉敷などに代表されるような比較的保存対象が明確な伝建地区と比較すると，とらえどころがない難しさはあるのだが，その分柔軟性があるともいえる。北野は全国比較でも市民まちづくりの先進地と認識されており，観光地としての性能とともに住宅地としての性能も非常に高いので，目玉をそちらに切り替えて，60年近い観光地化と住環境整備の歴史を外国人に説明するというのも一案かなと考えている。何れにしても，まずは各国語通訳案内士さんの反応を見ながら，アップデートの方法を探してみたい。機会があれば，経過をご報告させていただきます。